特研図書
857
31

特研図書
(31)
No. 857
中村(俊)
32.5.1

我師の云利休は茶の湯をわびしく
事とせられしものなり其外の
道具をも悪しきを新しく
なすと見せしを新しく
利休義不無之新古は用利休
わびたるとて古はなしとも
なりたる人を摺雪なりとも所

よろしく家の風を用ゐるも用ゐ
らるゝものにもあらすと云まてね
数寄とはむつましとありけりとや
誹諧は此のよしあし句をなほしをく趣ハ
爲人なり誹諧をて此趣なり趣に
又此席にてしかりとて此は長
是は風雅なりとしるへきにて見利

せらるゝほとに亭主なるもの少くや
おもしろの筆つゐしか前の席の志より
なする時は精出し算して身流し
くらふたる人無念は句なりとも
是非しき發句のきわりはいふまてもなく
句ともおもしろく工ことにめくらしての
發句はたしかならむなりとせんと無所き

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宝暦甲寅角述

右文章其角雑談集之巻載而角浚二十五年俳道日盛但亡作者用心者焉或以腹藁或餔糟粕争點勝負以媚當日判者無意其雪月花其臨席前句未唫了競唱自已句以其巻豫也粤五子締交有年暇日慣新撰六帖意輪為判者而加合點書

既成無意勝負互難陳以相娛
也角之言寔可貴焉豈非斯道
之師哉讀之者其有取于此

點譜

褒章二十点 七字十五 五字十、 白兎園 宗瑞
三字七、朱五、長三、丸二、

花君子二十五点 龜巢二十、魚戲十五、 樽巷郎 蓮之
三字十、二字七、朱五、長三、丸二、

數露印面 長三、 柳隣 咫尺

崑山美玉十八点 三圈十五、雙圈十、 絢堂 素丸
一圈七、朱五、長三、

六羨歌二十点 南零水十、臨岸水七、 鷗心亭 長水
朱五、長三、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長水
蓮之
尺尺
素九
之
尺

前？

ウ

今宵の月に出て拍子
を打て乃ち人を不撥拍
花僧本源に成て吹てめく
俄為に舞を勧めると注ケ
門立さ磨の雲のもる
かうらの小笠に舞扇掃
空拍子をし踏を川瀬
を舞も乱くを拍子月

丸 尺 之 丸 尺 丸 尺 丸 尺

ナ

仏乃に這入ぬ吉野の
峯山の[illegible]に赤地錦
法人に[illegible]傾くれ鶯
仕舞物に鶯の[illegible]
吉野に聖護院様所通
[illegible]千歳の[illegible]
紫藤の舞を除る[illegible]
[illegible]

丸 尺 丸 尺 之 丸 尺 丸 尺

[illegible]
正月[illegible]
山[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

之
丸
[illegible]
尺
之
丸
尺
水

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

丸
之
水
丸
之
尺

判道 宗瑞

是五鳳樓手 二

聖護院

席上珍 四
船所に日蔭置

この節句
むしの声

紫藤漢
ちんちと提て

朱 五

口本
屑くちき

寛楮のあたらし
抱桓む

夕月夜

長 八

凡 四

古錦なし這子ゆり更衣　宗瑞

まふ子の中半蓼(タデ)に小刹口　卯尺

蘇家(リダ)村に浮しく尺をく迄はて　素丸

船場の籬に佛もよし稲　長水

名鳴に出艇治乃亂あ錦や　尺

ひより魚(トウ)風(ガ)の肩さむけく　丸

ウ
はつくと熟柿(ジユクシ)の落る實座敷　水
せう腹立ては樋も無けれ　瑞
後鉢に彼うしれるの鬱　丸
端坂して居る地藏経好　水
椎の閑檐ケを婦く拵る事ともなる　瑞
拵るしまりそ手に翻りん　尺
繪ては織はうまと切きく川千鳥　丸
あらは紫の中に相公には其似　長

とまりわく導も浪ハ野の百鉢　尺
京驚鍋し錫春拝しむ月　瑞
松とく如には豆腐よしかりは奥　水
うの経中経男　律義千万　尺
十
浮風は律を翻うつる継路細　瑞
抑しし而権　林古の月条で　丸
驚は二ゑとし原繪ては其皿　水
花氏年をに丸大宮国は房　瑞

賣杜丹屋ゝん花ゝまゝけ掛
尺
ゆ屋ゝゝ右ゝ沢ゝゝつゝゝ屋ゝ
永
育子の世ゝ子ゝゝ怪ゝ部ゝ
丸
御ゝ大ゝ工ゝ部ゝ恵の世ゝゝゝ
尺
京ゝ屋ゝ屋ゝ色ゝ掛ゝゝ誰ゝゝみ
端
袋ゝ（茶ゝゝゝゝゝゝ関
丸
松男ゝ袋ゝ一ゝ重ゝゝ宝ゝ殺
ゝ
茶ゝゝゝゝゝゝゝ大
端

ウ
縁ゝゝゝ本の縁ゝゝゝゝ殊殺ゝゝ
丸
松字ゝ用（ゝ入ゝゝゝゝ
尺
紙ゝ（鶴ゝゝゝゝゝゝ
端
作ゝ家ゝゝゝゝゝ嗅（キカ）ゝゝ
永
いゝゝ鞠ゝゝゝ花ゝゝゝゝゝ
尺
ゝゝゝゝゝ屋ゝ屋ゝ
丸

判者蓮之

魚戯一

藝後の蔦る

十里香二

泊る立　　雑うみ

青銭四　　笠の戸

浪形　　稚う家来

すまよ

朱七

発句　　鳴る自　　川千鳥

郷ちかん　　青子　　まくらの雲

花ちり

長九　　九六

蓑や不形天ふく花る蔦も枯　　蓮之

浦井花魚の一家ちかく　　素丸

門の月天ふる鉢ふて　　長水

きをとけ行る藤の中より　　宗瑞

笑つるさ立蕪ふる蕾花絹　　丸

新鶏花印うの　　水

古塚に孫の傳きて繁昌する
何角申されし縁を忘る
紙鳶七の子菓子所望する
文を楊弓に掛たるより
拙集や小柄を抜くほとぎす
人一倍まるく饒舌の春
鮮茶を飲て拳しに申
家伝つゝく花の老気毎

瑞之丸
瑞之丸
瑞之丸
瑞之丸
瑞之丸

俳諧味と若となるる雑子に声
はつゝぢ咲て紙屋に掛る
合羽の中に一炉伴の月
ゆるる矢くらに芋蔓入る内
窓毎に月に八重咲ちらす
あるう姿に お雑記書
書ぶで一種を対面に稽古
師匠を能る通る暑さ日

瑞之丸
瑞之丸
瑞之丸
瑞之丸
瑞之丸

公人中間と背くかけくる和子（ヤキガヲ）延
弓師紙屋（ミセ）にて
彦八と紙あらそひの義
扶言葉をもつて紙屋
稲舟紙四帖にて先つ手紙（ニギリ）取り
橋の辻へ編笠追く
先手もつて不届（ホウヅキ）無宮ちやん袋うち

丸
之
水
丸
之
端
丸
之

ウ
本願寺忠へ長崎
ゆく宮ちやん袋の形
ちりめん取る者所の墨
石摺紙宮八幡宮へ参（ムスキ）
丸
屋敷乃毒ち山伏所
之
解く宮し義花紙藤町
端
釣りくく家橋ち拭
水

判者尺

十五吳姬蔓下毎一

[illegible]

十丈蓬一

[illegible]

七条車四

[illegible]

五湖橋四

七のこと葉子

[illegible]

八丈子

山[illegible]

長十二

尺尺

[illegible]

[illegible]

長水

宗瑞

蓮之

水

瑞

[illegible]

履いた[illegible]の種[illegible]

[illegible]つの種[illegible]

[illegible]うち[illegible]を入る[illegible]種

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言葉訛りて[illegible]敬

[illegible]の[illegible]山[illegible]月

雑[illegible]

小[illegible]

[illegible]解る川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
一年[illegible]の金　元ヶ水
[illegible]尺
[illegible]之
[illegible]
[illegible]尺

ウ
[illegible]
[illegible]之
[illegible]
[illegible]尺
[illegible]
[illegible]水
[illegible]
[illegible]之

判者素丸

三圈一
双圈一
一圈四

横手新
蕎麦

朱七
六句ハ
川柳の餐
ものゝ
長八

寺の花弱
仙ゝ色る
若ハ春秀

素丸山
春ものゝ新
春ものゝ下
むかゝ
むかゝ水の
手鹽罠乃
稲垣ハ
為衛ゝ

宗瑞
蓮之
尻尺
猶
之

ウ

之孫寄ると云ふ所有れ尺

道三郎しつてゐる所なりも凡

五月雨に合羽なくして帰る半稱

すのこの十二ゆくゑの法尺

地ゑりし曲輪て河原も喰ひし之

正別当に成り孫ゑ凡

コカシ

集ゑるまの寄て見物尺

道也河て命じ内まゑ稱

本乃のゑさ少を乱山の新ゑんで凡

業士大候ゑうゑ成年月之

叩りゑの社帝に本地所稱

唐ゑ千井ゑ乱釈ゑよく似る尺

ナ

ゑ寄ゑ成ゑしゑ若の面之

信度鎌つも会ゑしゑ表稱

ゑるくゑる寄キニ雇ゑ乱表凡

蛇ゑ一尺ゑ寺のふ関帝之

[illegible]七り[illegible]不[illegible]
[illegible]
[illegible]城ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

尺
猶
凡
尺
之
凡
尺
之

ウ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

猶
凡
尺
之
凡
猶

判者長水

南雲水　一

寺の小網町

臨岸水　三

四月

あ中

朱四

[illegible]

[illegible]

長八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

敬雨

長水

宗瑞

蓮之

素凡

炉尺

ウ

松の月元笛浜町に暁旅宿　水

嵐ハ蘭に似たりけり撥　西

急雛もまゝしく云事あり　之

秘河しあへと八幡宮飯　猪

旅慣く月蓮瀬のこゝ結ぶ夜　只

手ぬぐひ羅紗晴まする雲　凡

結付て席く吹く石鹸（シャボン）泡天くく　西

二日三夕紙抱き寄る月　水

風のこゝ鼓に一声梢の美　猪

代々し鉄灸き霧に具大鍋　之

涼草の青葉に溜し造茅色　只

縦秋のふる秋くれにまくまず　凡

春花の巨蛙の揃へ茶つつに　之

天下泰平穀つゝしつ強　只

作矢箱纒く奴の手のりせく　水

秋のまゝ手と蔣纒無袖　西

此寺さ有る所の手洗うも
凡
の御廟所奥さよん花
稲
有くて山ち形樹の作る能
天
曽ての琴（コト）弾（ヒン）ものれ抜
水
一枝の緑枝伸んて咲きたり
西
葉押さ法のもの尖
凡
能作る陸さ枝くの月の稜
稲
稜集る古い形山
之

廟より垂掛（トン）て蔦（カツラ）椒
凡
ちつの寺下の寺あり
西
ちるさ法ぞう高わう七つ塔
水
二塔所根さてより
稲
手形ん（ユ）と献（ユゼ）ん仲ぎむの塔
之
表紙立ん一人で拝む
尺

安永六年丁酉春再刻

京都書林　井筒屋庄兵衛
　　野田　治兵衛
江戸書林　須原屋茂兵衛
大坂書林　大野木市兵衛
　　石原　茂兵衛

右慶作三癸年十月
向[illegible]